

はじめに

昨年来、世界的な漁業資源の減少について報道される機会が多く、食料の安定供給に対する関心の高まりを反映している。

FAOの統計によると、世界の主な漁業資源のうち、今後開発の余地があるのは4分の1であり、約半数の資源は満限に利用されている状況にあると報告されている。このような状況の中で漁業資源を今後も安定して供給していくためには、関係国が資源状況をモニタリングし、その結果にもとづいた有効な資源管理方策のもとで管理を実施することが重要である。

一方で、環境問題が国際社会において重要な位置を占めるなか、混獲問題をはじめとして、漁業活動が生態系に及ぼす影響についての議論が活発化している。この議論に対応する為には、漁業は生態系の一部を利用する活動であるという認識のもと、生態系に与える負荷を最小限に抑えるべく知見を蓄積し、有効な対策を講じていかなければならない。

水産庁では、これらの課題に対応した調査研究を実施するため、高度回遊性魚類、鯨類、溯河性魚類など二国間・多国間を問わず国際的な管理が必要な漁業資源や生態的に関連する種について、国際資源対策推進委託事業の中で調査を行っている。

本書は、この事業によって得られた調査・研究結果について、広く一般に広報することで資源管理に対する理解の促進を目的としており、主に地域漁業管理機関において対象となっている漁業資源について、地域漁業管理機関で合意された各国の漁獲動向・生態学的特性・資源評価結果を中心として、我が国独自の科学的見解も盛り込んでいる。本書の作成に当たっては、水産庁の委託を受けて資源調査・評価を実施している独立行政法人水産総合研究センター、財団法人日本鯨類研究所等に所属する科学者の方々の協力が不可欠であった。この場をお借りして、科学者の方々に深甚なる敬意を表すものである。

なお、本書に掲載している資源評価等については、下記のホームページでも公開している。本書及びホームページを引用する際は、出典を明記されたい。

ホームページ：国際漁業資源の持続的利用と適切な保存・管理のために

<http://kokushi.job.affrc.go.jp/>